

## 指示語「ソナ」と「ソウイウ」について

松浦恵津子

### 要 旨

「ソナ」と「ソウイウ」は、相互に置き換えられる場合と置き換えられない場合とがある。どのような文脈の中で置き換えられないのか、置き換えられる場合は、置き換えるとどのような違いが出てくるのかをみることによって、「ソナ」と「ソウイウ」の違いを、両語を用いる際の話者の心的な側面から考察した。そして、「ソナ」は、指示対象物のとらえ方が全体的、感覚的であり、「ソウイウ」は、指示対象物のとらえ方が限定的、客観的であるという結果を得た。このような違いは、両語の語源とも関係があると思われる。また、会話や文章の話題・内容の違いによって、両語の頻度に差がみられるのは、このような両語の違いによるものであると考えられる。

【キーワード】 指示語 ソナ ソウイウ 属性を表す

### 1. はじめに

指示語のうち、「ソナ」（「こんな・そんな・あんな」の3語）や「ソウイウ」（「こういう・そういう・ああいう」の3語）は、名詞にかかって名詞の表すものの属性を表す。同じく名詞にかかる指示語でも、「ソノ」（「この・その・あの」）は指し示すはたらきだけをもち、属性を表すはたらきはしない（高橋 1990）。この点で、「ソナ」「ソウイウ」と「ソノ」とは明確に区別される。では、「ソナ」と「ソウイウ」の違いはどうだろう。森田(1980)では、「ソナ」は「対象を見下し軽視する態度が強い」のに対し、「ソウイウ」は「丁重で、対象を尊重する気持ちは強い」としている。金水・木村・田窪(1989)では、「ソナ」は「対象の性質・特徴に対する強い感情的な評価」を伴ったり、否定の述語と組み合わせさって「強い否定の気持ち」を伴うとしている。徳川・宮島(1972)では、「『こんな』と『こういう』とをくらべると、『こういう』が客観的に類似のものとの比較をのべているのに対し、「こんな」はやや価値的な判断が加わっているという傾向がありそうである」としている。阿部(1995)では、「コンナ類」と「コウイウ類」が相互に置き換えられない場合を紹介し、分析をおこなっている。すなわち、コンナ類には「名詞句から抽出される属性の程度を表し修飾する用法」、場所・時間を表す名詞にかかる場合に「不特定指示の名詞句をつくる機能から解放された用法」があるとしてい

る。また、「どんな人」「どういう人」の問いに対する応答で、「その場面に存在することの理由や、間接的にその理由を示すことになるその場面の中心人物との関係を示す身分を答えなくてはならない」ときは「どんな人」は使えないこと、「こと」「意味」「つもり」「気」などの名詞にかかる時、述部に用いられてある事態や発言についての説明を要求したり、指示・照応したりするときに、コウイウ類が使われることを述べている。

本稿では、先行研究で指摘されたそれぞれの語の用法の根底にあると思われる違いについて考察し、より一般化して記述できるような説明を試みたいと思う。ここでは、「ソナ」あるいは「ソウイウ」を用いるときの話者の心的なものの違い——それぞれの語を用いるとき、話者は指示対象物をどのようにとらえ指し示しているかについて考察し、仮説をたて、用例を用いて仮説を検証していく。

## 2. 「ソナ」と「ソウイウ」の違いの仮説

まず、次の例文から見てみる。

- 1) (相手の着ているシャツを見て) そんなはでなシャツ、持ってたっけ?  
(出典のないものは作例、以下同)
- 2) (相手の着ているシャツを見て) そんなはでなシャツ、どこで買ったんだ?

1) 2) のような現場指示の用法の場合、「そういうはでなシャツ、持ってたっけ?」「そういうはでなシャツ、どこで買ったんだ?」というふうに置き換えるとやや不自然さが伴う。しかし、次の 3) 4) のような文脈指示の用法では、「そういう」に置き換えても不自然ではない。

- 3) 「このシャツは地味すぎて目立たないから、今度は原色の大きな柄のあるはでなシャツを着て来いって言われた。」

「そんな } はでなシャツ、持ってたっけ?  
そういう }

- 4) 「登山のときは、よく目立つようなはでなシャツを着たほうがいいらしいよ。」

「そんな } はでなシャツ、持ってたっけ?  
そういう }

3) 4) の「そんな」を「そういう」に置き換えた場合と 1) とを比較してみると、1) の「そんな」は視覚でとらえた感じを「そんなはでなシャツ」と言っているのに対し、3) 4) の「そういう」は知的な判断のプロセスを経たあと、「そういうはでなシャツ」と言っているように思われる。3) 4) で「そんな」を用いるときは、相手が言ったようなシャツをイメージとして視覚的に思い浮かべ、見た目ですべて的にとらえていると考えられる。次に、「そういう」を現場指示で用いた例を検討してみる。

5) 「(相手の着ているシャツを見て) そういうはでなシャツは、着ていかないほうがいいよ。」

5) が用いられる典型的な場面を考えてみると、たとえば、葬式であるとか、墓参りであるとか、具体的な状況があって、そのような状況と照らし合わせて考え判断した結果、5) のように言っている、というように解釈される。次の 6) は文脈指示の用法であるが、「そんな」を使うとやや不自然さが伴う例である。

6) 「語義が細かく分かれていて、必ず例文が出ているような詳しい辞書を使いなさいと言われたんだけど、{ そういう } 詳しい辞書、何か知ってる?」  
(?) そんな

6) では、「そういう詳しい辞書」とはどういう辞書なのか、話し手が具体的に説明できる。話し手の頭の中で、「詳しい」という属性の要因が具体的に整理されていて、分化しているといってもよい。3) 4) で「そんな」を使った場合は、「原色」「大きな柄」「目立つ」などの「シャツがはでである」ことの要因を整理してとらえているというよりも、全体的・視覚的にとらえて「はでなシャツ」と言っているといえる。

1) 4) 5) 6) の用例に関して、「そんな」を使うか「そういう」を使うかの傾向をみるために、アンケート調査をおこなった。質問紙は、次のとおりである。

{            } 内のどちらの語を選びたいですか。  
1) (相手の着ているシャツを見て)

- 「 { そんな そういう } はでなシャツ、持ってたっけ？」
- 4) 「登山のときは、よく目立つようなはでなシャツを着たほうがいいらしいよ。」
- 「 { そんな そういう } はでなシャツ、持ってたっけ？」
- 5) (墓参りに行くという相手に)
- 「 { そんな そういう } はでなシャツは着ていかないほうがいいよ。」
- 6) 「語義が細かく分かれていて、必ず例文が出ているような詳しい辞書を使いなさいと言われたんだけど、 { そんな そういう } 詳しい辞書、何か知ってる？」

表1 アンケートの結果

	1) *	4)	5)	6)
そんな	20 人	12 人	14 人	4 人
そういう	2 人	11 人	9 人	19 人

\*1) は、「そういう」を選んだが、相手が家族であれば「そんな」を選ぶ、とした回答者が1人いた。この1人は、表1の人数に含めなかった。

1) は「そんな」を選ぶ人が多く、6) は「そういう」を選ぶ人が多かった。4) と 5) は、大きなかたよりが見られなかった。4) 5) は、話者が視覚的・感覚的に傾いているか、客観的判断のほうに傾いているかによって、「そんな」でも「そういう」でも文脈上不自然にならないからであると考えられる。以上のような考察をもとに、「ソナナ」と「ソウイウ」の違いについて仮説をたててみた。微妙な場合もあろうが、基本的・典型的には次のようにまとめられる。仮説：「ソナナ」は、指示対象物のとらえ方が全体的、感覚的である。そして、属性の要因が話者の頭の中で整理されておらず、未分化である。「ソウイウ」は、指示対象物のとらえ方が限定的で、知的な判断の結果「ソウイウ」を含む文が産出され、客観的ともいえる。そして、属性の要因が話者の頭の中で整理されている、分化している。

### 3. 仮説の検証

次に、上の仮説の検証を、いくつかの例文を用いておこなう。次の 7) は「そういう」に置き換えられないか、置き換えるとかなり不自然になる例、8) はニュアンスは変わるかもしれないが不自然にはならない例である。

7) K : そうですか。嫉妬深くないですか。

A : 嫉妬ですかあ。

K : ええ。でも、たとえば、付き合っている男性が違う女性とあらぬホテルからこうね……。

A : { そんな } もん、嫉妬どころか、それで終わりですよ。  
\*そういう

(おしゃべり)

8) 修一「でも、そうなったら、今度は感情がぎっしりつまった生活だろう。

愛してるとか愛していないとか、冷たいとか、冷たくないとか、そんな計りが一杯あって、返事をしなかったぐらいでも愛情が問題になったり、そんな面倒な世界へ入って行くのが、怖いんだ」

良雄「そんな面倒くさいかな？」

修一「いいときはいいさ。しかし、{ そんな } もんは長続きしやしない。  
そういう

また手首切るとかなんとか」(ふぞろい)

次の 9) は「そういう」に置き換えられないか、置き換えるとかかなり不自然になる例、10) はニュアンスは変わるかもしれないが不自然にはならない例である。

9) 「ネオ・ドレスデンが消滅したんだ。惑星が一つ消えてしまったんだ。何がおこったのかわからないよ……」

「じゃあ、ママとパパは……」

「……一緒だったんだよ。ネオ・ドレスデンで……」

シンヤの言葉に、私は、嘘よ、{ そんな } ことないと悲鳴をあげた。  
\*そういう

(占王星)

10) 出来あがつた料理に絵具その他でいろいろと細工をしてから撮影する。

(中略) 何しろ、刺身の場合には刷毛で天ぷら油を塗るのが秘伝だといふから、これぢやあ食指が動きませんよ。

つまり、どんな名人上手の作った料理だつて、かういふややこしい操作をほどこさなければ、うまさうな写真にならないのださうで、ところが総合雑誌

のカメラマンは { そんな } ことをしないでリアリズムでゆくから、われ  
そういう

われの食欲をいつこう刺激しない色刷り写真になるのだといふ。(男の)

7)~10)の例について考えてみると、「そんな」を「そういう」に置き換えられないというのは、「そんな+名詞」で表されるものごとを頭ごなしに拒否・否定している場合である。考えるまでもなくあるわけがない、だめだ、というケースである。「そういう」は、説明的で、知的な判断の結果「そういう」を含む文が産出されるので、問答無用で否定・拒否する場合に「そういう」を使うと不自然になる。

次は、拒否や否定を表すのではないが「そういう」に置き換えられない例である。

11) 良雄「義姉さんと離婚しろってことでしょうか？」

耕一「ああ」

良雄「そんなことよくいえるな」

耕一「ま、俺が勝手に見つけて、嫁さんにした女だしな」

良雄「 $\left\{ \begin{array}{l} \text{そんな} \\ * \text{そういう} \end{array} \right\}$ の当たり前じゃない」(ふぞろい)

11)は、考えてみるまでもなく「当たり前」と話者がとらえている文脈である。これに「そういう」を用いると、「当たり前」とする理由を説明的にとらえ、冷静な判断のうえでいっているというニュアンスになり、11)の文脈に合わなくなると考えられる。

次は、もともと「そういう」が使われた用例である。

12) 男 : はあ。お父さん、七十二歳でらっしゃるんですか。

老人 : 昔はもっと若かったがな。

男 : 当たり前ですよ。

老人 : それぞれ、 $\left\{ \begin{array}{l} \text{そういう} \\ \text{そんな} \end{array} \right\}$ 生真面目なところがウイットに欠けるとい

うんじゃ。(らも咄)

12)は、「そういう」の前で「それぞれ」と、一点を限定・強調するかたちで相手の発話内容を指し示している。「それぞれ」のあとには、指し示し方が限定的な「そういう」を使ったほうが「そんな」を使うよりも、限定的に一点を指摘するという話者の意図にあったものになっている。

13) 「学生さんかと思ってたわ」

「 $\left\{ \begin{array}{l} \text{そういう} \\ * \text{そんな} \end{array} \right\}$  ことにしてあるのよ。ね、黙ってて、私がモデルだっ  
てこと」 (女社長)

13) の「そういうことにしてある」は「学生ということにしてある」である。指し示す内容がだいたいこうであるというように漠然としているのではなく、具体的で明確である。

14) (結婚式の引き出物について話し合っている)

「ついでに、グラスだとか、置き時計だとか、食器類なんかだと、大抵のおうちにはもうすでに一式そろってるじゃない。 $\left\{ \begin{array}{l} \text{そういう} \\ \text{そんな} \end{array} \right\}$  意味でも、スプーンはいいわよ。あらたに二個やそこらふえたって、たいして場所とらないし、邪魔じゃないし」 (正彦くん)

14) では、話者は引き出物にスプーンがよいということを説明的にのべ、相手を説得しようとしている。指し示す内容が「グラスだとか、置き時計だとか、食器類なんかだと……」というように具体的である。具体的で明確な内容を指し示して相手を説得する理由としたいときには、「ソナ」よりも「ソウイウ」を使うほうが話者の意図に合っているように思われる。以上のような用例について見たところ、先の仮説は妥当なものであるといえるのではないだろうか。

このような「ソナ」と「ソウイウ」の違いは、「ソナ」は日常的な内容で感情を表出しやすい会話や文章で用いられ、「ソウイウ」は客観的・論理的な内容の会話や文章で用いられるという差にも反映されている(次の表2参照)。また、語源の差が、このような違いに反映されているとも考えられる。

「ソナ」は「ソノヨウナ」で「ようす」という語源をもち(大言海、佐久間1983)、感覚的、全体的なとらえ方につながる。一方「ソウイウ」は「言う」で言語で述べるという語源をもち、分析的、説明的なとらえ方につながるのではないだろうか。

#### 4. 文章の内容別「ソナ」「ソウイウ」の使用頻度

ここでは、文章の内容別に、「ソナ」「ソウイウ」等の使用頻度を調べた。2・3でみた「ソナ」と「ソウイウ」の違いにより、発話の場や内容の性質

によってそれぞれの語の使用状況は異なると予想される。つまり、「話しことば」か「書きことば」か、くだけた場かあらたまった場か、日常的な内容かかたい内容かによって、各語の使用頻度が左右されると予想される。ここでは、内容の違いに重点をおいて、次の3種類の文章を選んだ。

- ①映画のシナリオ3つ 日常的な内容の会話が中心（話しことば）
- ②対談2つ 参加者計5人 アカデミックな内容のもの（話しことば）
- ③朝日新聞社説 平成7年6月、11月、12月のもの58日分 論説（書きことば）

表2 文章の内容別「ソナナ」「ソウイウ」等の使用頻度（資料出典は本稿末）

	①シナリオ:日常的な内容の会話			②対談:アカデミックな内容			③社説:論説		
	回数	%	%	回数	%	%	回数	%	%
こな	26	24.8	86.7	2	1.2	10.7	14	8.8	34.4
そこな	50	47.6		15	8.9		41	25.6	
あこな	15	14.3		1	0.6		0	0	
こうい	3	2.9	13.3	9	5.3	84.0	2	1.3	6.9
そうい	10	9.5		132	78.1		9	5.6	
あいう	1	0.9		1	0.6		0	0	
こうした	0	0	0	0	0	1.2	50	31.2	48.7
そうした	0	0		2	1.2		28	17.5	
ああした	0	0		0	0		0	0	
このような	0	0	0	0	0	1.2	11	6.9	10.0
そのような	0	0		2	1.2		5	3.1	
あのよう	0	0		0	0		0	0	
こういった	0	0	0	1	0.6	2.9	0	0	0
そういった	0	0		4	2.3		0	0	
ああいった	0	0		0	0		0	0	
合計	105	100	100	169	100	100	160	100	100

表2について

- ① [シナリオ] で使用率が最も高かったのは、「そんな」「こんな」「あんな」の3語だった。この3語の中では、この順に使用率が高かった。

対談、社説と比べても、「そんな」「こんな」「あんな」の使用率はシナリオがいちばん高かった。日常のくだけた会話では感情を表出しやすく、そのような場では「ソナナ」の使用率が高いと考えられる。

- ② [対談] で最も使用率が高かったのは「そういう」で、調査した15語の使用回数 169 回のうち 132 回 78.1 % が「そういう」だった。次に高かったのは、「そんな」の 8.9 % だった。

シナリオ、社説と比べても、「そういう」の使用率は対談がいちばん高く、客観的・論理的な立場で何かを述べるような場では「ソウイウ」系統が使われると考えられる。同じソ系でも「そうした」「そのような」「そういった」が少ないのは、話しことばとしてはあらたまりすぎているということなのであろうか。

- ③ [社説] で最も使用率が高かったのは「こうした」で 31.2 %、次に高かったのは「そんな」で 25.6 %、3番めに高かったのは「そうした」で 17.5 % だった。ソ系が 51.8 %、コ系が 48.2 %、ア系は 0 % だった。ソ系とコ系がほぼ半分ずつ使われ、ソ系の場合は「そんな」の使用率が高かった。「そんな」は次の 15) のように、批判的な意見や感情を述べる部分で用いられるものが多かった。

- 15) 社会党も新党も、どうなってもいい。何ととっても大事なのは、政権の安泰だ。村山富市首相が、よもやそんな気持ちではないだろう。

(朝日 95.12.16)

## 5. まとめ

「ソナナ」と「ソウイウ」の違いを、話者が指示対象物をどのようにとらえ、指し示しているかという点から考察し、次のような結果を得た。すなわち、「ソナナ」は、指示対象物のとらえ方・指し示し方が全体的、感覚的である。一方「ソウイウ」は、指示対象物のとらえ方・指し示し方が限定的であり、知的な判断のプロセスの結果「そういう」を含む文が産出され、客観的である。「ソナナ」「ソウイウ」の両方が使える場合は、話者の対象物に対するとらえ方が全体的・感覚的か、限定的・客観的かのどちらに傾いているかが選択の要因になっていると思われる。このような違いは、両グループの語の語源とも関係が

あると思われる。また、会話や文章の話題・内容の違いによって、両グループの語に頻度の差がみられるのは、このような違いが反映されているからであろう。さらに、このような「ソナ」の特性は、「ソナ」が程度を表したり価値評価的な属性を表したりする用法に発展していく。その点については、松浦(1996)で触れている。

### 参考文献

- 徳川宗賢・宮島達夫(1972)『類義語辞典』東京堂出版  
森田良行(1980)『基礎日本語2—意味と使い方』角川書店  
大槻文彦(1982)『新編大言海』富山房  
佐久間鼎(1983)『現代日本語の表現と語法〈増補版〉』復刊 くろしお出版  
金水敏・木村英樹・田窪行則(1989)『日本語文法 セルフマスターシリーズ4 指示詞』くろしお出版  
高橋太郎(1990)「指示語の性格」『日本語学』3月号 Vol.9 明治書院  
阿部寛(1995)「コンナ類とコウイウ類—ものの属性を表す指示詞—」『日本語類義表現の文法(下) 複文・連文編』くろしお出版  
松浦恵津子(1996)「『こんな・そんな・あんな』の意味・用法」平成7年度お茶の水女子大学大学院修士論文

### 用例出典(出現順)

- (おしゃべり) 「上沼恵美子のおしゃべりクッキング」朝日放送  
(ふぞろい) 『ふぞろいの林檎たち』(山田太一) 大和書房  
(占星王) 『占星王をぶっとばせ!』(梶尾真治) 新潮文庫  
(男の) 『男のポケット』(丸谷オ一) 新潮文庫  
(らも咄) 『らも咄』(中島らも) 角川文庫  
(正彦) 『正彦くんのお引っ越し 結婚物語 中』(新井素子) 角川文庫

### 表2の調査に使用した資料

#### ○シナリオ

- 「ふたり」原作:赤川次郎 脚本:桂千穂『'91年間代表シナリオ集』(1992 映人社)  
「泣きぼくろ」原作:安倍譲二 脚本:松本功・田部俊行・工藤栄一『'91年間代表シナリオ集』(1992 映人社)

「息子」原作：椎名誠 脚本：山田洋次・朝間義隆 『91年間代表シナリオ集』 (1992 映人社)

○対談

「日本人の『思想』の土台」 『日本人は思想したか』 (1995) 吉本隆明・梅原猛・中沢新一

「退化した第三の眼」 『脳という劇場 唯脳論・対話篇』 (1991) 養老孟司・中村雄二郎

○社説

朝日新聞社説 平成7年6月、11月、12月のもの計58日分

(お茶の水女子大学大学院人間文化研究科比較文化学専攻2年、  
東邦音楽大学非常勤講師)